

インクルーシブ・フリートークまとめ

2. フリートーク（参加者によるフリーディスカッション）

会場からの質問でも、インクルーシブデザインとサステナビリティの関係を問うものが有りました。人間工学会などで、現在「人間中心設計」のキーワードの見直しが始まっていて、環境全体の中での人間のあり方を見ようという流れが出ていますね。

HCD-netでも「人間中心設計」そのものについての議論が始まっています。現状の社会課題が、人間中心では解決しないという考えに基づいています。サーキュラーエコノミーとの関係や、インクルーシブデザインとインクルージョンの捉える範囲の問題など、いろいろ大切なテーマがあります。

サーキュラーエコノミーと言うと欧米の発想に感じますが、日本独自の「もったいない」という考え方も同じです。日本人ならではの「もったいない」の感覚は自然に循環型経済、モノを使い捨てない考え方に紐付くのではないかと考えられます。日本人独自の感覚にさかのぼっていくと多様性のものの見方の一つにつながり、インクルーシブに考えていくことで日本独自のサーキュラーエコノミーができあがると思います。

北米だと障害者団体が強いので、使えない場合、訴訟というかたちに出やすいですね。日本だと控えめ。我慢している人が多いのではないかと感じます。それらの課題に対して解決策を提示した時に、いろいろな人の気付きにつながり、まだまだできることがあるのではと、次のステップへつながると良いと思います。

車いす利用者を車に乗せるということをずいぶん研究しました。海外は簡単にできることがなぜ日本でできないのか考えると、生活環境や寸法が全然違ってきます。さらに、北米は傷痍軍人がものすごく優遇されていて、身障者パーキングを健常者は絶対に使わないのです。車をデザインする場合、フロアはできるだけ低くしたいのですが、実用性から地面から30cmがほぼ限界です。そこにスロープをつけると距離があれば有るほど良いのですが、日本の道路、駐車場事情を考えると、ギリギリ健康な車いすユーザーが頑張っただけの距離になってしまいます。

考えられる事を色々対策して車いす利用者に試乗してもらった際、これならまあ乗れると言っていました。一方、普段どんな車に乗っているか尋ねたところ、普段はスポーツカーに乗っているとのこと。「多少乗降はしづらいが、普段車いすに乗っているのだから、車に乗った時ぐらい普通の人になりたい。」とのこと。良かれと考えた対策が押しつけがましいものになっていなかったかと考えました。同様に、最近のエレベーターはUD対応で低いところにボタンがあって身長の高い人間は使いにくい。そう考えるとすべての人に対応するUDは存在するのかもしれない。

あるデザイン事務所のインクルーシブデザインの説明に今のお話に関係するものがありました。そこでは「インクルーシブデザインとは、全ての人々のために一つのモノをデザインすることでは無い、誰もが帰属意識を持てる様に、除外されてしまっているユーザーの課題をモトに、デザインしていく事である。インクルーシブデザインで最も大事なものは除外されたコミュニティとともにインサイトを探し出し、ユーザーが参加しやすくなるための新しい方法を見つけ出すことです。」としていました。目的ベースで様々な対策の方向を考えると今のお話に関係しますね。

車の場合、目が見えない人は自分で運転できません。一方、家電製品は目が見えなくても使えるよう工夫されています。車を自分で運転するという視点で考えると、最も障害者を排除している工業製品の一つではないかと思えます。今車業界は100年に一度の大変革期と言われていますが、自動運転になれば、その概念は大きく変わると予想されます。極端な話になりますが、子供でも運転ができることにもなります。そうなった時に、車をもっと考えるのか、今模索をしています。車独自のもう一つの要素でFUN TO DRIVEがあります。運転する、操る楽しみ、そういう所は絶対に残ると思いますが、自動運転になってもその楽しみを残していくにはどうしたらよいのかと言う課題も一方であります。

両極に分かれる感じでしょうか？

インクルーシブ・フリートークまとめ

今、60代、70代の人々たちは、若いころから車を乗り続けており、運転の経験値が高く、車自体に強い愛着をもっている人も多いと思います。運転が楽しいと感じる人が多いのも、この世代ではないでしょうか。一方でアジアでは、若者と年配者が同じタイミングで車を所有するようになった地域もあります。このような地域では、車の経験が少ないことから、車は単なる移動の手段と割り切る人達もいます。自動運転が普及すれば、車内で運転以外に色々なことをしたいと考える人も増えるのではないのでしょうか。

クルマの運転は、自動車学校で訓練をしないと車の運転はできません。そう考えると運転は、人間に相当な負担をかけていると言えます。この負担を少しでも減らし、人が楽に長時間安全運転できるようにするために、車の開発は進められてきました。それが自動運転になると、運転への負担は少なくなり、従来の車と人との関係が大きく変わると思います。

自動運転が必要な人は絶対にいます。一方で、訓練をして自動車に乗る、人間としての脳の機能や身体機能を活かす部分は絶対に無くなってはいけないと思います。高齢者介護施設で要介護高齢者の世話をしているいつもジレンマがあります。介護する側は転倒が怖いので、車いすに乗せたら安全ではと考えます。しかし、車いすに乗せたらもうダメで、認知症が一気に進んでしまいますし、足腰もさらに衰えてしまいます。自動化が必要な人もいますが、ある程度自分の自立が必要ではなんでしょうか。自立が人間の本質で、自立できる部分を必ずどこかに残して置くことが良いと思います。利用者が楽になるだろうと思うことは実際には逆の影響も出てしまいます。自立の可能性を残すのもデザインの仕事だと思います。

車の免許を返納したとたんに行動範囲が狭くなり、生活の質が一気に落ちることで、身体機能が衰えてしまう人が非常に多いと言うのが統計的にも出ています。社会では高齢者は運転をやめてほしいと言われるますが、社会的には高齢者に車に乗り続けてもらった方が、元気な高齢者でいられます。そう考えると、これからの車会社は高齢者に安全に乗り続けてもらうための方法を真剣に考える必要があります。

ヤマハ発動機の論文に、バイクの運転によって精神年齢が若返るというものがありました。音楽のデバイスは日々変化していますが、再生するものが音楽であるという点は変わらないので人間側から見たら大きな変化はないといえます。「YOASOBI」とか最近の楽曲はイヤホンで聞いたときにきれいに聞こえるように作っているそうです。大きなスピーカーで聴きたい人もいれば、歩きながらシンプルなデバイスで聞きたい人もいます。このように利用者の選択の幅が広がっていくなかで、移動、車、音楽などがどうなっていくかこれからの若い人に考えてもらえるとうれしいと思います。

今では、一つのプロダクトにおいても体験の価値が複数あります。そういった複数の体験や価値を把握する考え方としてインクルーシブデザインがあります。現在、個性や多様性がすごく氾濫してきていて、個々に価値があり、それそれに対してサービスやコミュニティが接続するために把握するために、いろいろなモノや考え方を知っていく必要があってその一助になるのがインクルーシブデザイン的な考え方なんだろうなって思います。

ATM（現金自動機）のユニバーサルデザインを始めた当初は現金は絶対的なモノで、どうやって現金を扱うかが大事でした。現在は、電子決済が普及し、現金を持たずに暮らす人々もいて、モノを買う手段は多様化しています。いかに正しい時に正しい選択ができ、活用できる環境を多様に用意して行くかが大事になっています。移動に関しても、2地点の移動の手段が色々用意されてあって、その選択をどう助けるかということがインクルーシブといえるかもしれません。

米津玄師の「レモン」のMVの監督が、この曲は後生に残ると思い、MVの比率を普遍的な正方形にしたそうです。デバイスによって縦横の比が変わり、変化に合わせるために見やすさが変わることを避けたいという思いだそうです。正方形にした結果、奥行き方向のZ軸でレイヤー感を出す表現方法を発見するなどの効果もあった。デバイスや環境の変化に左右されないモノを創るものインクルーシブデザインかもしれません。

インクルーシブ・フリートークまとめ

本日のテマトークでは、聴覚障害者など必要な人がいなくても字幕をつけるという感覚とも共通する部分があります。モバイル端末の普及で健聴者でも動画を「ながら見」する使い方が増えています。動画を見ながら料理をしたり、ドライバーを使う場面がこれにあたります。ドライバーを使っている最中はうるさいので字幕が有効です。子供が寝ている時間に音を出さずに動画を見るという場合もあります。そんな時にテロップがついていると大変助かるものです。このように字幕がポピュラーなものになってきたように、ここ数年、体験が変わってきています。制作の場面でも、大御所の時代は、スタジオに行って録音するのが当たり前だったのに対し、ボークロイドで育った人は、PCのみで音楽を創ることに違和感が無いそうです。体験が多様化することによって才能同士がぶつかって思いもよらない名作が生まれる可能性もあるといわれています。

映画をオリジナルの英語で観て字幕をあえて英語にすると、子供達にとっても英語の会話の内容やニュアンスがわかりやすいです。Pixarとかは、日本語を選ぶと、映画内の看板も日本語になるようになっています。今の時代の人たちは、最新の技術を本当にさりげなく享受して、新しい世界に入っているようです。

カメラに関しても、自動露出からオートフォーカスへと自動化が進んでいます。さらに、今ではスマートフォンに統合されています。中国なんかはスマートフォンの時代からスタートしたので電柱や電話線が無い。いきなり、スマートフォン、高速大容量無線になっています。デジタルをうまく活用していけば、自動運転も段階的に普通になっていくので、新しい技術をどんどん普通に使うってこと、古い時代を楽しむことが共存するでしょう。

これからの世界は全て自動化に進むのではなく、古いものを残すべきだと思います。昔からずっと使い慣れているものは、デザインや使い勝手も含めて、そこで人間の自立機能がかなり保たれると思っています。認知症の方が、自分で竜頭を巻いて、日付と曜日も竜頭を引っ張って合わせる腕時計を利用しています。もちろん、日時設定とか細かい動作は自分ではできません。でも、2月28日から3月1日になるときは、日付を合わせて欲しいと持ってきます。すべて自動ではなく、今日が2月28日で明日が3月1日だから時計の日付を合わせなければいけない気づくことがその人にとってすごく大事です。このように全て自動的になるのでは無く、昔から使い慣れているもの、習慣というものが、すごく大事ななと一方では思っています。そういうのを残すとか、普及させるのも大げさに言うと、デザイナーの役割なんではないでしょうか。

仕事では自動運転をやっているけど、自分の生活では、マニュアルのオートバイや車を利用しています。自分が使う限り、古いものを残せる世界が良いなと思います。自動運転もやUDも着々と進めつつ、自分が没頭できることと世代感を守っていくというのは大事だと思います。

使い捨てカメラも今は若い人に人気です。チェキとかその場で撮って出せるというのが新鮮で、売りあげがすごい伸びているようです。同様に昔のフィルムカメラがすごい売れています。何でもデジタルになってしまって、誰が撮ってもそれなりにとれ、一方同じような写真になってしまう時代になったからこそ、撮るのが難しかったり、その場の一瞬しか切り取れないものにまた価値が出ているのでしょうか。歴史は繰り返すみたい。行ったり来たりが面白いですね。

今回のキーワード

人間のみならず、環境まで含んだ、インクルージョン、インクルーシブデザイン

人間の多様化、目的に対し、とりうる選択肢も多様化必要

それぞれの人の意思、達成感、自立と自動化の課題

自己実現・個性の発揮と自動化の関係